

土質ボーリング柱状図（標準貫入試験）

調査名 一般国道487号 道路災害防除事業（早瀬大橋耐震補強）に伴う仮設道路修正設計及び用地測量業務委託

事業名 または 工事名 一般国道487号 道路災害防除事業（早瀬大橋耐震補強）

調査目的及び調査対象 道路 掘削・掘削のり面

ボーリング名	BrNo. 2		調査位置	広島県呉市音戸町早瀬一丁目			北緯	34° 09' 20.8097"									
発注機関	広島県西部建設事務所呉支所				調査期間	2020年 12月 15日 ~ 2020年 12月 18日		東経	132° 29' 39.0578"								
調査業者名				主任技師			現場代理人			コア鑑定者		ボーリング責任者					
孔口標高	TP 11.84m		角 上下 0°	180° 90°		方位	北 0° 270°西 90°東 180°南		地盤勾配	水平0° 鉛直90°		使用機種	試錐機 YBM YS0-01 エンジン クボタ EA10		ポンプ	YBM SP-40	
総削孔長	14.00m																

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	現場土質名 (模様)	現場土質名	地盤材料の工学的分類	色調	相対密度	相対稠度	地質時代名	記 事	孔内水位 / 測定月日	標準貫入試験					試験採取番号	採取方法	室内位置試験	削孔月日					
												深度-N値図									深 度 (m)	100mmごとの打撃回数	打撃ごとの貫入量	50回の貫入量	自沈時の貫入量
1			礫混り砂 (盛土)			暗褐				深度0.1mまで植物根が多く混入する。 深度0.4mに1~4cmの礫石状。深度0.4~0.9mの間は細粒分やや多く混入する。 深度1m以深はマサ土主体で、φ15mm程度までの礫混入する。	12/16 3.90	9	1.15	3	3	3	9	300							
2												9	1.45								2	2.15	1	1	200
3	8.24	3.60										9	3.15	3	3	3	9	300							
4			風化花崗岩			淡黄灰				深度3.6~4.5mは、主に礫状~岩片状コアで、やや硬質。 深度4.5m以深は、原岩組織を残すも脆弱で、指圧で容易に割れ土砂状になる。 風化進行しており、石英が変質している。	12/16 3.90	18	4.15	6	6	6	18	300							
5												14	5.15	4	5	5	14	300							
6												16	6.15	5	5	6	16	300							
7												19	7.15	5	7	7	19	300							
8												21	8.15	6	6	9	21	300							
9												32	9.15	9	11	12	32	300							
10												37	10.15	9	13	15	37	300							
11												48	11.15	11	16	21	48	300							
12	-0.16	12.00	風化花崗岩			淡黄灰				風化しているが、岩組織を明瞭に残す。 一部でコアの外周が認められ、ハンマー軽打では濁音を発する。 指圧で砕くのは難しい。	12/16 3.90	63	12.15	15	22	13	50	240	240						
13												65	13.15	19	24	7	50	230	230						
14	-2.16	14.00										88	14.15	24	26	30	50	170	170						